

有斐齋弘道館の歳末恒例企画

# 歌舞伎 仮名手本忠臣蔵

# ゴトウ千香子 版画展

有斐齋弘道館 × ギャラリー島田 共催企画

## 四段目 判官切腹

俗に「通さん場」と呼ばれる忠臣蔵四段目は、物語前半のクライマックス。場内は暗くなり、緊張感に包まれたモノトーンの舞台が観客の息をも止め、ただ一点判官の動きだけが、全てのエネルギーを吸い込んでいく。

2016年

版画展:

12月3日(土)ー15日(木)

菓子展:

12月10日(土)ー15日(木)

10:00ー17:00 \*水曜休

会場:有斐齋 弘道館 2階アールスペース

入館料:500円

\*期間中開催の講談×茶会(12/11)、その他講座にご参加の方は無料でご覧いただけます。

\*呈茶ご希望の方は別途500円にてお申し込みください。

\*菓子展会期中の呈茶は福島幸治氏による忠臣蔵菓子ををご用意いたします。

作家トーク:

12月11日(日) 15:00~

ゴトウ千香子×福島幸治

江戸時代の庶民が熱狂した歌舞伎芝居の世界。日本人が永く愛してきた忠臣蔵という作品を通して、現代の日本人が忘れかけている何かをご一緒に思いおこすことができればと思います。

会期後半は「版画」と「菓子」とのコラボレーションをお楽しみください。

ゴトウ千香子作品をもとに、福島幸治氏が菓子を制作、展示いたします。“色彩的に完成された舞台”(ゴトウ千香子談)が、音とともに版画に凝縮され、またあらためて立体の世界を生み出します。

# 福島幸治 菓子展

「手のひらの自然ー京菓子和琳派ー」展2015 大賞受賞者 特別展



大賞作品「角彩」(参考:尾形乾山「色絵石垣文角皿」)

福島幸治(ふくしま ゆきはる)

「手のひらの自然ー京菓子和琳派ー」展2015 実作部門大賞受賞。栃木県にて100年つづく「御菓子司 ふくしまや」の三代目主人として受け継がれる伝統の味を守りながら、100年先も提供できる菓子の創作をおこなっている。今回の展覧会では、和菓子職人の目からみた「仮名手本忠臣蔵」を菓子で表現する。

「御菓子司 ふくしまや」ホームページ <http://www.29shimaya.com>

ゴトウ千香子(ごとう ちかこ)

1957年 大分県大分市生まれ

1967年 菅久(二紀会)の指導で油絵を始める

1979年 渡英

1980年 ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ美術学部入学

1981年 バイアム・ショウ美術学校に編入 音楽をテーマに制作を開始

1983年 バイアム・ショウ美術学校修了 ニューヨーク経由にて帰国

1984年 大野一雄氏に舞踏を、原田清琴氏に変体仮名を、野沢錦輝氏に

太極を学ぶ。文楽・歌舞伎・寄席・講談・浪曲に通い始める。

以降、東京(銀座・丸美洞ギャラリー)、大分(由布院駅アートホール、亀の

井別荘)、神戸(ギャラリー島田)、ロンドンなどで個展多数。

2014年、2015年 作曲家B・プリテンが68年前に始めたオールドバラ音

楽祭(イギリス)の招待作家としてボンド・ギャラリーにて個展開催。

2014年より弘道館にて仮名手本忠臣蔵作品展を開催。全89点の中から毎年十数点ずつテーマに沿って展示している。「人間のしたたかさ、脆さ、

悲しさを、これほど美しく凝縮させた演劇を、私は知らない。」